

老舗の酒造メーカーに必要なだったのは BCP の強化 信頼性の高い Arcserve シリーズが 肥大化するデータの保全や 災害対策サイトの構築に貢献



ユーザプロフィール

業 種：本格焼酎などの製造および販売
会社名：霧島酒造株式会社

課 題

本格焼酎の老舗霧島酒造は、IT システムのバックアップ運用に課題を抱えていた。課題は二つ。肥大化するファイルサーバのデータ保全の問題とバックアップシステムの効率化だ。バックアップシステムにおいては、イメージバックアップソフトウェアとストレージ機器を持つ重複排除機能を生かして毎日フルバックアップを実施していたが、バックアップやリストアに多大な時間がかかり過ぎていた。

初期導入

ファイルサーバのデータ保全については、当初、Windows Server の DFS 機能の利用を試みた。しかし運用が難しく、ファイルの複製が思うように行えなかった。そこで、展示会で出会った Arcserve Replication を採用することにした。“確実な複製”に加えて、同社の人員だけで運用できる“手軽さ”が魅力だったからだ。同ソフトを使って本社と 2 カ所のデータセンター間でレプリケーション体制を構築した。

追加導入

バックアップシステムの効率化については、Arcserve D2D の導入で実現させた。決め手は“使いやすさ”と“サポートの良さ”。マニュアルを読むことなく簡単に運用できる点が、他社のソフトを凌駕していた。クラウド環境へのペアメタル復旧が迅速・容易にできる点も評価のポイントだった。サーバをクラウドに移行させる際のツールとしても活用するなど、大きなメリットがあった。

効 果

現在は、サーバ 10 台のデータを、Windows Storage Server を搭載した NAS へのフルバックアップと 30 世代分の増分バックアップで運用している。1 サーバのバックアップ時間は 4 時間から 15 分に短縮。バックアップ容量も以前と比較して約 80%も削減できた。またデータセンタ上の DR サイトへの確実で高速なリストア環境も実現。導入後は、トラブルも一切なく安定稼働しており、事業継続性の大幅な強化を実現させている。





管理本部
システム管理課 課長代理
渡辺 清氏

芋焼酎「霧島」に代表される本格焼酎の販売で全国に名が知られている霧島酒造。事業活動を支える IT システムには常に最先端の技術を採用し、競争力を高めてきた。ただし、事業継続性という観点で捉えた場合、既存のバックアップ体制には多くの課題が存在していた。そのため霧島酒造では、BCP 強化を目的にバックアップ体制の見直しを図った。採用したのは、Arcserve 社のレプリケーションソフトとイメージバックアップソフト。両ソフトの活用によって、データ保全体制の整備やバックアップシステムの効率化、遠隔地データセンタ上における仮想環境の DR サイトの構築を成功させている。

経緯

日本一を目指す本格焼酎の老舗は IT 活用も先進的

1916年に創業し、今年で創業97周年を迎えた本格焼酎の老舗霧島酒造。肥沃な南九州で栽培されるさつまいも「黄金千貫（こがねせんがん）」と、同じく南九州都城盆地の地下から湧き出る「霧島裂罅水（きりしまれつかすい）」を利用した芋焼酎「霧島」は、全国の消費者に愛されている名酒だ。現在は、食と焼酎との新たな出会いを求めて、その土地ならではの食材や料理とのコラボレーションを目的とする「うまいものはうまい。」シリーズも展開。地域に根ざした企業活動で、“地ブランド霧島”から日本一を目指している。

日本一を目指す霧島酒造は、ITの活用においても先進的だ。仮想化を活用したサーバ統合への着手やシステムのクラウド化、スマートデバイスの採用など、他社に先駆けるIT活用で、業務の効率化や生産性の向上を実現し、競争力を高めてきたのだ。そして、ITの重要性を知るからこそ、システム運用の継続性の確保やデータ保全においても強固な体制を整えてきた。そうした中、東日本大震災を契機に、事業継続性の強化がさらに要求されるようになった背景もあり、災害対策において従来以上に万全な体制を追求することになった。

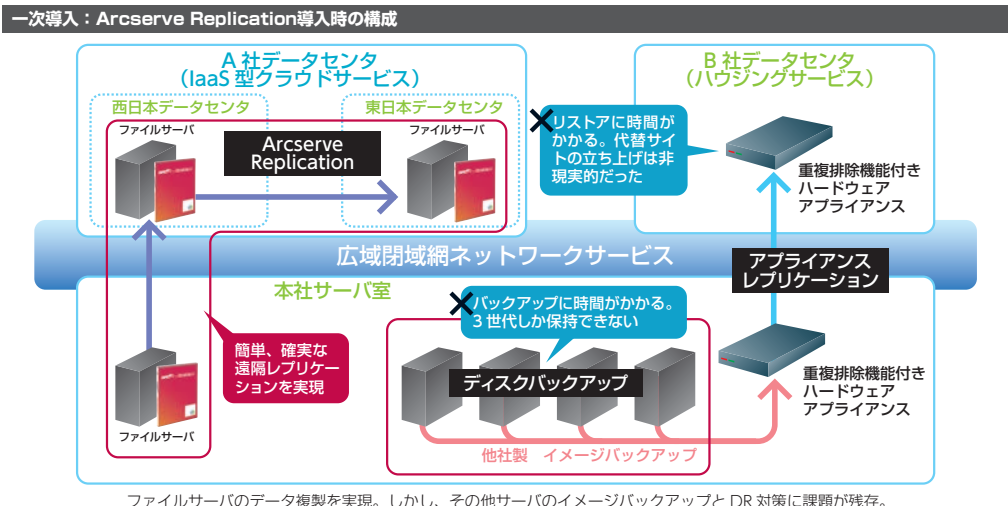


管理本部
システム管理課
堀之内茂幸氏

初期導入

ファイルサーバのデータ保全のために、確実に複製がとれる Arcserve Replication を採用

霧島酒造が抱えていた課題は二つあった。まず一つ目は肥大化するデータの遠隔地での保全だ。管理本部 システム管理課 課長代理の渡辺 清氏は「年々肥大化するファイルサーバのデータをどうやって保護するかが大きな課題として浮上していました」と当時について振り返る。当初、霧島酒造では、Windows Server の DFS 機能を利用してクラウド環境にファイルサーバのデータをレプリケーションすることを試みた。レプリケーションであれば変更点のみを複製するため、データが多くてもネットワークの使用量を抑えられると考えたからだ。しかし、DFS レプリケーションでは複製が思うようにならず、頻繁にエラーが発生した。「設定なども難しく、手を焼いていました」と管理本部 システム管理課の堀之内茂幸氏は吐露する。



そうした状況を改善するため、確実に複製を作成できるレプリケーションソフトを求めて展示会に参加することにした。そこで出会ったのが Arcserve Replication だった。「Arcserve の説明員はレプリケーションに関わる課題を把握されていたので、相談に乗っていただきました。そして、薦められたのが Arcserve Replication でした。説明を聞いて当社の課題を解決できそうだと思ったので、すぐにハンズオンセミナーを受けて自社環境で検証を行いました。実際、Arcserve Replication は、確実に複製がとれることはもちろん、設定が簡単で当社の人員だけで運用できる手軽さが魅力でした。そのままファイルサーバのレプリケーション用途として運用を開始し、本社と 2 カ所のデータセンター間でレプリケーション体制を構築したのです。同期失敗などのアラートが全く発生せず、確実な運用が実現しました」(管理本部 システム管理課 丸本雅夫氏)

こうして一つ目の課題であった肥大化するデータの保全は、Arcserve Replication の採用によって解決した。

追加導入

毎回フルバックアップが必要。リストアにも時間がかかり代替サイトの構築は非現実的

二つ目の課題はバックアップシステムの効率化だった。霧島酒造はこれまで、ディスク to ディスクを実現するイメージバックアップソフトウェアと重複排除機能を搭載するストレージによってバックアップシステムを構築していた。しかし、ストレージの機能を利用して重複排除を行うため、増分バックアップを行うと重複排除が効率的に行われずデータが増加してしまっただ。そこで重複排除の効果を高めるために毎回フルバックアップを実施して圧縮率を高めたが、今度は、バックアップ自体に時間がかかるようになってしまった。さらに、ストレージ容量とバックアップ時間を考慮すると 3 世代までしかバックアップを持てなかった。

また、ストレージ側で重複排除を行っていたため、リストアの際には、ストレージ側でブロックの再配列と復元の処理が必要になり、多大な時間を要していた。実際、サーバに故障が発生した際に、バックアップデータからリストアしようとしたところ 2 日以上もかかってしまった。「本番サーバに障害が発生した際には、データセンタ上のバックアップサイトで代替サーバを立ち上げることを検討しましたが、リストアに時間がかかり過ぎるため、実用的ではありませんでした」(渡辺氏)

評価したのは他を圧倒する簡単さ、サポート対応力、標準機能のベアメタル復旧機能

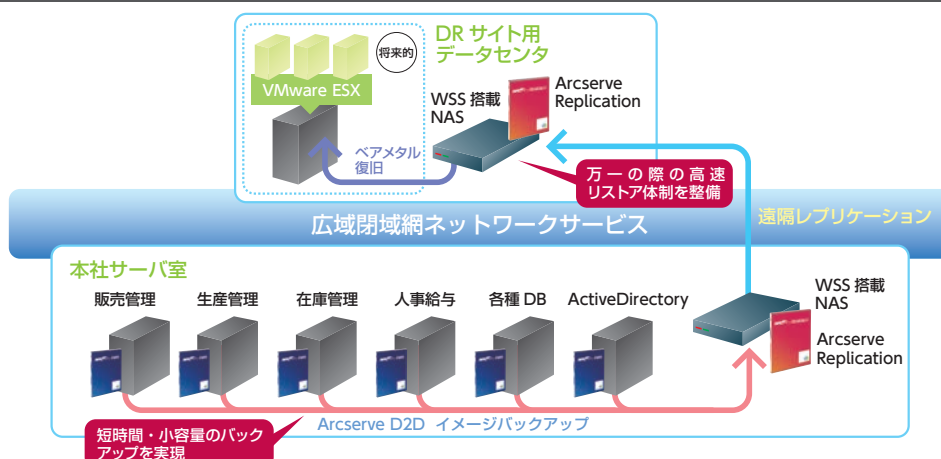
そこで、バックアップに利用していたストレージのリプレース時期に合わせて、バックアップシステム自体を見直すことにした。その過程で検討の土台が上がったのが Arcserve 社のイメージバックアップソフト Arcserve D2D だった。すでにファイルサーバのレプリケーションソフトとして安定稼働している Arcserve 社のソフトに厚い信頼感を抱いていたからだ。

実際には、Arcserve D2D に加えて、さらに 2 社のバックアップソフトで比較検討を行った。各ソフトの検討ポイントは、「環境構築の容易さ」「アーカイブの圧縮率」「検証環境構築時のサポート対応」「ベアメタル復旧の容易さとライセンス体系」など。特に、非常時には代替サーバをデータセンタの仮想環境に構築することを見据えて、クラウド環境へのベアメタル復旧が迅速・容易にできるかどうかを重点に 1 カ月間検証を行った。そして選ばれたのが Arcserve D2D だった。

「決め手はなんといっても、“使いやすさ”と“対応の良さ”に尽きます。マニュアルを読むことなく簡単に運用できる点は、他社のソフト

と比較して突出していました。そして、検証環境を構築する際に迅速で丁寧な対応を受けられたのが Arcserve 社でした。当社の要望や疑問について懇切丁寧に対応していただけたので、検証作業は非常にスムーズに進められました」と堀之内氏は喜ぶ。丸本氏は、「ベアメタル復旧機能で移行し、移行後のサーバの動作確認もできました。本当に手軽にできて驚きました。また、ベアメタル復旧がオプションではなく通常機能として利

二次導入：イメージバックアップとレプリケーションの課題を解消した現在の環境



用できる点も嬉しかったですね。以前使用していたソフトでは、専用ツールを別に導入する必要がありましたから。同時期にサーバのリプレース対象システムのクラウド移行を計画していたのですが、その P2V 移行ツールとして活用できたのも大きな成果でした」と振り返る。安価な NAS にバックアップできる点や管理サーバが不要な点もコストや運用面において高い評価を得た。

効果

4 時間から 15 分にバックアップ時間が短縮。データ容量は 80%削減

1 カ月の検証期間を経て 2013 年 4 月に Arcserve D2D の導入を終えた霧島酒造。現在、販売管理システムサーバ、生産管理システムサーバ、データベースサーバなど 10 台のサーバのデータを、Windows Storage Server を搭載した NAS へのフルバックアップと 30 世代分の増分バックアップで運用している。以前は各サーバごとに 4 時間かかるフルバックアップを毎日行っていたが、現在は初回のフルバックアップ以降は 1 サーバ 15 分程の増分バックアップで対応できている。「これまではフルバックアップ 3 世代分のデータ容量が 460GB にもなっていました。しかし今は、フルバックアップと 30 世代分の増分バックアップを含めると総容量は 85GB に収まっており、以前と比較してバックアップのデータ容量は約 80%も削減できています。コストについても従来のストレージを延長保守で利用する場合と比較して約 40%削減できました」（渡辺氏）

また、Arcserve D2D を導入する前から利用している Arcserve Replication も引き続き採用した。今回のシステムでは、Arcserve D2D でバックアップしたデータをそのままデータセンタ上の Windows Storage Server 搭載 NAS にレプリケーションし、万一の際にはそのデータを使って VMware を基盤とした仮想環境にベアメタル復旧させる予定だ。「検証の際に、本社サーバ室のデータを利用してデータセンタに構築した仮想サーバへのベアメタル復旧を試したのですが、その場合でも約 2 時間でサーバ 1 台分をリストアできました。データセンタに設置した NAS にバックアップデータがある場合には、さらに高速なリストアが期待できます。災害対策として非常に強固な基盤を築くことができました」（堀之内氏）

今後は、Arcserve High Availability を利用して Oracle Database で構築している販売管理システムの本番サイトから DR サイトへの自動切り替えを実現したり、バックアップデータから自動的に仮想マシンを作成する Arcserve Central Virtual Standby を活用して、万一の際の DR サイトへの自動切り替えを実現させて、事業継続性をさらに高めていく予定だ。

ユーザプロフィール



霧島酒造株式会社

霧島酒造は、大正 5 年に創業。創業以来一貫して品質にこだわった焼酎造りを行っております。南九州の風土で育まれたさつまいもと地元都城の名水「霧島裂罅水」を用い、伝統の技と最新設備を融合させて造ることで「霧島ブランド」を確立しました。“人と風土の醸すもの”。これからも更なる品質の追求とともに、新たな価値の創造を目指してまいります。

代表銘柄は「霧島」、「黒霧島」。

- URL / <http://www.kirishima.co.jp/>
- 住所 / 宮崎県都城市下川東4丁目28号1番
- TEL / 0986-22-2323

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
©2015 Arcserve(USA), LLC. and / or one of its subsidiaries. All Rights Reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目105番地
神保町三井ビルディング 20 階
お問い合わせ窓口：Arcserve ジャパン ダイレクト (0120-410-116)
JapanDirect@arcserve.com

※記載事項は変更になる場合がございます 2013 年 8 月版

詳しくはWebで!

Arcserve.com/jp

検索

Printed in JAPAN